



草原再生

子供たちへ引き継ぐ千年の草原



ヒゴタイ Photo/Yuji Ueno

なぜいま、阿蘇の草原再生なのでしょう

世界最大級のカルデラ地形の上に広がる広大な阿蘇の草原。

平安時代の昔から、放牧、採草、野焼きなど地域の生業とともに維持されてきた阿蘇の草原は様々な文化を育むとともに、多様な草原生態系や豊かな景観を生み出しており、まさに、人が自然とともに生きてきた文化の象徴といえます。

今

阿蘇の草原は危機に瀕しています！

●減り続ける野草地

阿蘇の草原では、昭和40年代を中心に植林や改良草地化が急速に進み、野草地は激減しました。その後も、野草地は減り続けています。

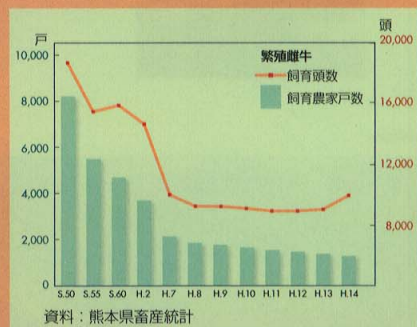
●野草の需要が減り、牧野利用が低下

近年の畜産業の低迷により放牧頭数は減少、農業や生活様式の変化により草の利用も減り、利用されない草原が増えています。

●野焼き・採草など草原の管理作業も困難に

農家の兼業化や高齢化が進み、管理放棄により藪化した草原も広がっています。草原維持作業が比較的問題なく継続できる牧野は、わずか12%しかありません。

放牧頭数の減少



その結果、国立公園としての景観や草原生態系が損なわれつつあります。

阿蘇の草原は多くの人々に恵みをもたらしているかけがえのない資産です。

この千年の草原を

次代の子供たちに引き継いでいくため、草原再生に取り組みます。